

## さらなる発見と学びを得た韓国実習

文教育学部言語文化学科4年

松永 彌有子

## 1. 参加の動機・目的

南北統一について、韓国人の本音を聞いて来たい、これが私が今回のプログラムに参加した一番の動機である。

私は、昨年2月から12月の10ヶ月間、韓国・ソウルの梨花女子大学に、交換留学生として派遣された。大学生活で、韓国人の友人と知り合ったことをきっかけに、韓国人の国民性や、韓国文化と日本文化との共通点や相違点に関心を持ったためである。昨年の留学を通して、韓国語能力を向上させ、文献やインターネットではなく自分の体験を通して韓国という国を見つめることが出来た。その中で、私が最も興味をもった韓国の社会問題は、北朝鮮との統一問題であった。韓国政府は、北朝鮮との分断以降、一貫して統一を目指してきた。しかし、経済的な負担や、治安悪化などの恐れから、統一を望んでいる人は、そこまで多くはないという印象を受けた。南北統一について、深く調査してみたいという思いから、私は、卒業論文のテーマとして、南北の統一問題を扱うこととした。当事者ではない日本人の私が、扱ってよいテーマなのか、悩んだ。しかし、朝鮮半島を支配し、終戦後統一政府を樹立できないうらままでに国の力を奪った日本にも南北分断の根本的な責任があると考え、日本の責任について韓国人はどのように考えているのか、尋ねてみたいと感じた。そこで今回のプログラムの募集があり、インタビューをするために十分な1ヶ月もの間、韓国に滞在できること、現地の学生との交流があることに魅力を感じ応募した。

このように、今回のプログラムへの参加は、午前の授業による英語力の向上や経済の知識の習得のため、昨年習得した韓国語を忘れないようにもう一度学び直すためだけでなく、昨年築いた人脈や、今年新たに築く人脈を頼りに、卒業論文の調査・インタビューを進めることが大きな目的であった。

## 2. 成果

## 2.1 多文化交流実習 I

午前の授業では、**International political economy** を履修した。来年から社会人となる上で経済に関する知識は必須であり、学生のうちに学んでおきたいと考えたからである。授業開始から何日間かは経済学初学者のために、経済学の基本理念から丁寧に解説してもらった。高校の授業で政治経済の授業をとっていたので、その時の知識も思い出しながら、授業に臨んだ。後半では授業の内容は、金融危機や環境問題など、現在起こっている具体的な問題へと移された。毎回の授業では、講義のあとにディスカッションの時間が設けられていた。英語力の不足を改めて実感させられた。自分の言いたいことを相手に100%伝えられないもどかしさ、相手の言いたいことを100%理解できない歯がゆさを感じた。英語は今後も根気強く勉強して行きたい。また、社会問題に対して、しっかりと自分の意見をもっている同年代の学生たちの意識の高さを感じ取ることが出来た。この授業を通して、経済を考える上での土台を身につけることが出来たため、今後も社会情勢に目を向け、それに対し自分なりに考察し、意見を言える人間になりたい。

世界中の学生と、世界共通のテーマについて学び、議論することは、私の今後の学習意欲や知的好奇心を大きく刺激した。

## 2.2 多文化交流実習Ⅱ

韓国語講座は、2部に分かれていた。前半は韓国語教育で有名な西江大学のテキストにそって、上級者向けの文法事項や語彙を学んだ。ペアでの会話練習もあった。自分の弱点である、擬態語や擬音語を沢山習得することが出来た。テキストの構成は、韓国の大学での勉強や韓国での日常生活に必要な韓国語能力をつけるためなのか、韓国の文化について学ぶというよりは、一般常識や科学や心理などの専門分野に関連した韓国語を身につけるためのものであった。中間試験は文法や作文などの筆記試験であり、期末試験はアンケート調査の発表であった。私達のチームは、ストレスに関する日韓比較をテーマにし、韓国人10人、日本人10人に尋ねた。ストレスの原因、ストレスに対する身体的反応、ストレス耐性、ストレス解消法についてそれぞれ選択肢を5つ程用意した。韓国人、日本人の国民性や文化の違いなどを踏まえて、結果を予想していたが、実際のアンケート結果は予想と反したものが多かった。また日韓の結果は類似していた。10人ずつしかアンケートをとらなかったため、正確な統計調査とは全く言えないが、固定観念を裏切る結果となり、興味深かった。

授業の後半では、韓国の文化や人々、日常的な慣用表現などを学ぶものだった。私達が興味を持って学べるように工夫されていて毎回新鮮だった。ある時は、短編のドラマを見て、そこに出てくる語彙を学び、最後に台本を読むという内容であり、ある時は韓国語のポップソングを練習した。また、特に面白かったのは、韓国人男性が喜ぶ恋人の行動について、というものである。日本の常識では考えられないようなことばかりで驚いた。

3週間という短い期間であったが、語彙も増え文法の知識や韓国文化への理解が一層深まった。語学の道は終わりが無いということを改めて実感させられた。また、同じクラスに大学受験終了後から韓国語を学び始めたという大学1年生の中国人学生がいたのだが、とても流暢な韓国語を話していた。昨年の交換留学の際も、中国人学生の語学力の高さには感心させられた。日本語と韓国語は語順が類似しており、他の国の人々に比べ日本人は韓国語の上達が早いと言われる。しかし、語順の違いを乗り越えて高度なレベルまで上達する中国人学生達の熱意や中国の教育水準の高さは、凄まじいものである。自分の英語学習の際には、語順の違いは言い訳にできないと強く感じた。

## 2.3 ショートビジットで学んだこと

### 2.3.1 韓国で感じた「外国人」としての自分

韓国語が聞き取れるようになってから、外国人としての自分を意識し、思うように身動きが取れなくなってしまったり、不快な思いをしてしまったりすることが昨年の交換留学時から多々あった。どうやら発している言葉だけでなく身なりや雰囲気でも、韓国人ではないとわかるようである。道を歩いていると小声で「この人日本人じゃない?」「本当にここは外国人ばかりよね。」といった類いの韓国語が聞こえる。飲食店に入れば、両脇のテーブルの人たちからはじろじろと見られ、隣の話は、日本人についての話になる。私が韓国語を聞き取れると思っていないのだろう。異質と見られているという疎外感を感じ、気分

が悪かった。その旨を韓国人の友人に相談したところ、「ほとんどの人は、外国人に対する単純な興味でから、そうしてしまうのであって、嫌いだからとか自分たちと違っていておかしいからとかいう感情ではないから、深く考えないで。」という返事が返ってきた。確かに自分は意識し過ぎだったのかもしれない。しかし、反対に、自分自身が日本で何気なくとっている行動が、外国人に対して疎外感や不快感を与えていることがあるのかもしれないと感じたため、これから気をつけていきたい。

### 2.3.2 卒業論文調査を通じて

授業や留学生イベントの合間をぬって、卒業論文のテーマである南北統一に関する調査を進めた。渡航前に用意した文献を読みすすめながら、韓国人の友人に韓国の政治体制や社会構造、経済状況などを詳しく教えてもらって知識を増やした。午前の授業で出会った韓国人学生も多いに力を貸してくれた。その上でインタビューの設問を考え、録音した。出身地域や信仰している宗教など様々な因子に基づき、それぞれの方が持論もっていて、多様な価値観に触れることが出来た。インタビューをする中で、相手から、「じゃあ、あなたはどう思う？」と聞かれることもしばしばあった。初めて聞かれた際には、正直なところ、自分の意見が確立されておらず当惑してしまった。意見を求められるということは、韓国の方々も南北統一を北朝鮮と韓国の二国間のみの問題としてではなく、もっと広い枠組みの中で協力しながら解決していくべき事柄として考えているのではないかと感じた。卒業論文執筆の際に、新たな提言ができるように、更なる研究を進め、自分の考えを掘り下げていきたい。

### 3.まとめ

今回のプログラムは、3週間という、外国語と外国文化を学ぶには短い期間であったが、その分一日一日を充実させることが出来た。世界中の学生の新鮮な意見を聞いたり、韓国人学生に韓国の文化を教えてもらったり、日本の他大学の学生と韓国語の勉強法などについて情報交換をしたりと、国内外での人脈が広がった。国際交流や異文化理解を促進させるのは、何よりも個人の交流や友情であると私は感じる。今回出来た友人とはEメールやSNS等、何らかの形で繋がることで、いろいろな国の文化について知り、自分自身も日本について教えられればと思う。また、日本の友人とは、よき仲間でありよきライバルとして、韓国語学習などの点で切磋琢磨していきたい。